

九州運輸局メールマガジン

平成22年5月20日 第82号（発行日：毎週木曜日）

～九州の明日を拓く運輸と観光～

九州運輸局HPアドレス <http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。

目次

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（5月13日～5月19日掲載分）
 - 各種情報
 - 各種手続き
 - 報道発表
- 2 お知らせ
- 3 現場レポート
 - 海上交通低炭素化事業の促進に向けて
- 4 九州運輸局セミナー【船舶測度官】
 - トン数って何？
- 5 リレーコラム【筑豊自動車検査登録事務所長 樋口 一則】

- 1 九州運輸局ホームページアップ情報（5月13日～5月19日掲載分）

各種情報

《入札・契約情報》

- ・企画競争結果の公表（5 / 17 付け）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/kikaku_kekka/100517.pdf

- ・企画競争実施予定情報の公表（5 / 17 付け）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_100517.pdf

- ・企画競争実施予定情報の公表（5 / 18 付け）

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_100518.pdf

各種手続き

《海技試験制度・合格発表》

- ・海技免状等の国家試験（平成22年度4月定期試験分の更新）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kaigisiken/body.htm>

報道発表

- ・福岡市で「第5回ジャパン・クルーズ・シンポジウム」を開催することが決定しました！（5月14日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press100514.pdf>

- ・一般貨物自動車運送事業者に対する事業停止処分（5月14日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2010-0513-1508-3.pdf>

- ・メールマガジン「地域活性化ニュース」の配信開始（お知らせ）（5月17日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2010-0517-1319-2.pdf>

- ・「九州における今後の交通のあり方に関する検討会（第1回）」を開催します。（5月17日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/2010-0517-1326-2.pdf>

- ・外国人観光客受け入れ体制整備のための案内表示等の多言語調査（阿蘇市、高森町、南阿蘇村）及び（別府市、由布市、大分市）の実施結果を公表します。（5月17日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2010-0514-1340-3.pdf>

2 お知らせ

- ・旅客自動車運送事業運輸規則等及び貨物自動車運送事業輸送安全規則等の一部改正について（4月1日）

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2010-0514-0925-2.htm

- ・道路運送法及び貨物自動車運送事業法に基づく運行管理者資格者証の返納命令発令基準等の一部改正について

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2010-0514-1043-2.htm

- ・旅客自動車運送事業者及び貨物自動車運送事業者が点呼等において用いるアルコール検知器を定める告示

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2010-0514-1047-2.htm

・平成22年度運行管理者等一般講習の開催について（5月14日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2010-0514-1516-3.pdf>

・自家用自動車の使用停止処分について（5月17日）

<http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/osirase2010-0517-jkan.pdf>

3 現場レポート

海上交通低炭素化事業の促進に向けて

5月10日、福岡運輸支局、若松海事事務所及び下関海事事務所は、合同で「海上交通低炭素化促進事業に関する説明会」を開催しました。

この事業は、船舶運航事業者などが、使用する船舶に省エネ装置を装着するなどの改造を行ったり、現在使用する船舶より優れた省エネ中古船に買換えた場合に、その費用の1/2を国費により補助するというものです。

既に3月に、福岡市で本局主催での説明会が開催されていますが、より多くの事業者の皆さんにこの事業を活用していただきたいということで、今回改めて関門地区のフェリー、旅客船、内航船、それに造船・船用工業の方々にご案内したところ約40名の参加があり、開催の運びとなりました。

説明会は、支局職員に加えて、実際に申請処理に携わっている本局海事振興部貨物課からの応援を得ましたので、具体性のある説明、質問への的確な回答など、参加した方々からも大変好評でした。

最後に、船舶の省エネ化を図りたい内航船事業者等と少しでも仕事に繋げたいと願う造船関係者、こうした事業者間の連携が進み、この事業の活用がより図られることを切に願いたいと思います。

なお、「海上交通低炭素化事業」につきましては、以下のURLをご参照ください。

http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk3_000009.html

(福岡運輸支局、若松海事事務所、下関海事事務所)

4 九州運輸局セミナー

トン数って何？

「総トン数 10,000 トンの豪華客船が博多に入港」などとニュースで「総トン数」という言葉を聞いたことはないでしょうか？

一般的に「トン」と言えば重量の単位ですが、船舶の「総トン数」はそうではありません。総トン数というのは船舶の大きさを表す指標であり、船舶の容積に基づき算出されたものです。

この総トン数は船舶に関する様々な法律の基準として広く用いられており、例えば船舶の構造・設備、乗組員の資格配乗等の安全・環境基準をはじめ、租税手数料の賦課基準や各種業法の基準として、実に 40 以上もの法律で用いられています。

この総トン数を算定しているのが海事技術専門官（船舶測度官）です。全国に 46 人が配置されており、国内・国外の船舶のトン数を算定しています。

トン数の種類

船の世界には大きさを表す指標として先に挙げた「総トン数」だけでなく様々なトン数が有ります。大きく 2 種類に分けますと、船舶の容積に基づく『容積トン数』と重量に基づく『重量トン数』とが有ります。

『容積トン数』とは、一定の基準により船舶の寸法を測り算出した容積に係数を乗じて得た数値に『トン』を付して表したもので、「総トン数」、「国際総トン数」、「純トン数」などが有ります。なお、ここでいう『トン』とは、単位としてのトンではなく呼称です（「トン」の語源には諸説ありますが、最も有力なものとしては次のような説があります。昔々、船の大きさはワイン樽をいくつ積むことが出来るかで表していました。ワイン樽を叩いたところ「トンッ」と音がしたのでトン数というようになった、というものです）。

一方『重量トン数』は、一定の基準により船舶の寸法を測り算出した数値をトン（1000kg）により表したもので、「載貨重量トン数」、「排水トン数」などが有ります。

様々なトン数の概要

容積トン数

・国際総トン数

「国際総トン数」は、船舶内全部の容積を算定し、外国に航海する船舶の大きさを表すために用いられる指標です。

国際海事機関（IMO）において制定された「1969 年の船舶のトン数の測度に関する国際条約」に基づいて国際的に統一された計算方法により算出します。

・総トン数

「総トン数」は、船舶内全部の容積を算定し、船舶の大きさを表すための主たる指標として我が国における海事に関する制度に用いられる指標です。

「国際総トン数」の規定により算出した値に、係数を乗じて算定します。

・純トン数

「純トン数」は、貨物積載場所等の容積を算定し、旅客又は貨物を輸送するために使用される船舶内の場所の大きさを表すために用いられる指標です。

純トン数は船の中で直接利益を上げる場所の大きさ、即ち収益能力を表すトン数となることから、主に税金を定める指標となります。

「国際総トン数」と「純トン数」は、外国に航海する船舶が所持する国際トン数証書に記載されます。

・パナマ運河トン数及びスエズ運河トン数

「パナマ運河トン数」、「スエズ運河トン数」は、それぞれの運河を通航する際の通航料金を算定するために用いられる指標であり、それぞれの運河が定める規則によりトン数が算定されます。

重量トン数

・載貨重量トン数

「載貨重量トン数」は、貨物などを積んだ状態と降ろした状態の排水量の差を算定し、船舶が安全な航行を確保するために、貨物などの積める量を表すために用いられる指標です。

・排水トン数

「排水トン数」は、船舶の排水量、すなわち船舶の重量を表すための指標です。船舶の水面下の体積と同体積の水の重量は船舶の重量と等しいということから排水トン数を算定します。ただし、水が海水である場合には海水の比重（1.025）を乗じて算定します。

主として軍艦の大きさを表すための指標として用いられます。

トン数の使用上の注意

このように一口にトン数と言っても様々なトン数があるため、場合によっては誤解が生じる可能性もあります。ですので「この船は～トン」「～トンの船にはこれが必要」というような場合、どのトン数を言っているのか、どのトン数を基準にしているのか、ということをご確認して頂き、誤解のないようにして頂けれ

ばと思います。

(海上安全環境部 船舶測度官)

5 リレーコラム

春の異動で筑豊の事務所に勤務することになりました。30数年の公務員生活で初めての勤務地です。前任地は鉄道部で1年3ヵ月。鉄道も初めての経験であり、そこで鉄道業務の中で気になった言葉(単語)がいくつかありました、その中の一つに部内で飛び交っていたのが「トリコ」という言葉です。運転事故の一つで踏切道において、列車が車と衝突したときなどに出る言葉です。これは、踏切内立ち往生の俗称であり、車や人が遮断桿(遮断機の竿のこと)に挟まれた、いわゆる虜(とりこ)になるからだそうです。皆さんが、もしも、踏切内に閉じこめられたら、車を進め遮断桿を押して踏切から脱出してください。(遮断機の竿は簡単に押し上げて脱出が可能です。若干キズが付くかもしれませんが)

なお、列車は運転士が異常を発見し、非常ブレーキをかけて止まるまでの停止距離は、通常、600m程度かかります、列車はすぐには止まりませんよ!(衝突したら多額の損害賠償を請求されるかも!)

・・・以上雑談として

さて、私が赴任しています筑豊を紹介いたします。筑豊地区には五木寛之氏の小説「青春の門」の舞台となった香春岳(かわらだけ)が有名で、一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳からなる3連山であります。現在、一ノ岳は半分ほどが削り取られ(石灰石採掘)変形しており、時代とともにその姿を変えつつあります。

余談ですが、この香春岳については、今年の鉄道部の時に監査で日田彦山線を列車添乗(運転席に乗車)した際に、車中よりどこにあるのか気にしながら監査をしたことを思い出します。

また、筑豊は観光名所も多く、なかでも英彦山は日本三大修験の山(羽黒山、大峰山、英彦山)のひとつで、英彦山周辺は四季折々の自然を楽しむことができ、秋には特に美しい紅葉を見ることができます。残念ながら私は、自分の足では登ったことはなく、数年前に一度英彦山神宮付近まで車で家内とドライブしたことを覚えています。

筑豊は、明治時代以降に筑豊炭田が栄え、活気があったところでもあります。特に飯塚、田川、直方は「筑豊三炭都」と言われ、多くの炭鉱があった場所です。現在は全て閉山になり炭坑の採掘は行われていませんが、石炭記念館もありますので、是非、皆様も筑豊炭坑の歴史をたどってはいかかでしょうか? 地元のおいしい料理を食べたり、芝居を見たり・・・。

特に飯塚市内にある嘉穂劇場は、日本劇場建築の特徴である両花道とマス席を持った木造二階建ての歌舞伎劇場で、懐かしい手書きのカンバンが架かり、現在

もそのままの姿で利用されている全国唯一のものです。また、毎年開かれる、旅役者の「全国座長大会」は特に有名で、今年は9月11日（土）に開催されます。私もまだ入館したことはありませんが外のカンバンは見ましたよ。風情があり、昔にタイムスリップしたように感じました。

なお、このような木造の芝居小屋は全国に10余りあり、九州では他に熊本県山鹿市の八千代座が有名です。他にも前任の所長が平成21年3月の局報で紹介された「旧伊藤伝右衛門邸」もありますので、是非一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

（筑豊自動車検査登録事務所長 樋口 一則）

【編集部より】

皆様のお知りになりたい情報・ご意見・ご要望等をお聞かせください。

編集部ではできる限りご要望にお応えしたいと思います。

下記のメール又はファックスからお気軽にご連絡ください。

九州運輸局メールマガジン編集長（九州運輸局総務部広報対策官）

藤原 寿男（ふじわら としお）

mail : mm-kyushu@qst.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192

九州運輸局メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/top.html